

社会福祉法人中央会 令和元年度事業報告

【施設方針】

施設理念「家のぬくもり、家族のつながり、地域のつながりのある暮らし」の実現に取り組む。

【行動方針】

1. 地域における総合的な高齢者福祉サービスを提供する拠点法人に向けて「グループホーム ゆうけあ相河式番館」新規開設を行った。

(1) 当初の予定では令和元年12月開設予定だったが、建築基準法による確認申請済証の交付に時間がかかり、遅れて令和2年2月1日開設となった。しかし新型コロナウイルス感染拡大前に入居が終了できたことは良かった。

(2) デイサービスやショートステイ、小規模多機能型居宅介護を利用しながら入居を待っておられた近隣在住の方18名を開設前に決定することができた。

平均介護度 2.4

平均年齢 87.7才

女性 15名 男性 3名

入居前の生活圏域 ありまつ圏域が11名、やましな圏域が4名
いずみの圏域が2名、かみあらや圏域が1名

社会福祉法人中央会は地域密着型サービスの充実に取り組み、総合的な高齢者福祉サービスを提供する拠点法人として前進できた。

2. 法人組織において事務部門の独立

「グループホームゆうけあ相河式番館」の新規開設により、3つの建物、6事業所になり、職員数は100人を超えることになった。そのため運営組織を事業部と事務部に分けた。ベテラン事務職員の退職があったため、業務委託を行い効率化を図ることで対処した。

3. 経営基盤の強化と確立

(1) 平成31年10月からの介護報酬改定について

- ① 消費税10%引き上げに合わせて、介護報酬の引き上げ・食費居住費の基準費用額の上乗せが実施された。変更内容について利用者様又はその家族様へ説明し同意をいただいた。
- ② 介護人材の処遇改善を目的に経験・技能のある勤続10年以上の介護福祉士に介護職員処遇改善加算の上乗せを行う特定処遇改善加算の執行のため、新たに中央会キ

キャリアパスを作成した。これを指針に、介護福祉士にこだわらずリーダー級の経験・技能のある職員に対する加算配分ルールを決定した。(10 ページ資料参照)

6 か月で約 3 6 5 万円の加算による増収となった。

- ③ 消費税引き上げ 1 0 % に合わせて、給食委託業者、清掃委託業者、洗濯委託業者、リネンリース業者、おむつ代などの値上げがあった。利用者自己負担に当たる食費は平成 2 6 年の消費税引き上げ 8 % では値上げを行わなかったが、今回は消費税引き上げ 1 0 % に合わせ、1 日の食事代 1 4 2 0 円から 1 4 5 0 円に値上げを行った。同様に外部委託の美容料金の消費税分の値上げもあり利用者様又はその家族様へ説明し同意をいただいた。

- (2) 「グループホームゆうけあ相河式番館」の入居予約を早期に開始した。待機者がゆうけあ相河の別事業所を利用していることが多いので、入居と同時に利用者が減ることのないように各事業所では計画的に新規の利用者確保を行った。そのため短期入所生活介護・小規模多機能型居宅介護の利用者数が落ち込むことはなかった。

- (3) 事業所稼働率と収支報告 (11 ページ資料グラフ参照)

- ① 事業活動収入について、消費税引き上げ 2 % 相当の介護報酬引き上げと介護職員特定処遇改善加算新設があったこともあるが、稼働率が順調だったため全事業所において収入は増えた。
- ② 事業活動支出について、業務委託費や介護用品、消耗品等の消費税引き上げが行われた影響を受け支出は増えた。
- ③ 事業活動資金収支差額について、昨年度の寄付金 1 億 1 5 0 0 万円を除いて比較すると、3 6 0 万円の増収となった。
- ④ 当期資金収支差額合計について、グループホーム式番館の建築費支払いが含まれてマイナスとなっているが、グループホーム式番館以外の事業所における当期資金収支差額は合計 4 8 0 0 万円であり 2 0 0 0 万円の増収になった。借入金の償還金額が減ってきていることが主な原因である。

4. 介護職員確保に努める

- (1) 「グループホームゆうけあ相河式番館」のオープニングスタッフ採用は直前に一度の採用は難しいため、福祉のしごと職場体験受け入れ、職業訓練生の実習受け入れ、金城大学・金沢福祉専門学校・アリス学園の実習受け入れから始まり、福祉・介護就職フェア参加、福祉のお仕事グッドマッチング面談会参加、ほかに金沢情報・インディード・企業ガイドいしかわの掲載など多岐にわたって募集活動を行った。結果は令和元年 1 0 月以降 3 2 名採用することができた。オープニングスタッフに加え既存事業所の補充も行い、2 月 1 日にはオープンできる人員を揃えることができた。しかし、5 名はすでに退職となっており、そのうち 4 名はスマホ媒体の募集による職員だった。スマホ媒体の募集は初めての取り組みだったが、やはり軽い気持ちで入職してきたと

いう印象があり今後利用する場合、面接時の審査は慎重に行いたい。採用時期については多くが1か月前の採用にすることができ人件費を抑えることができた。

(2)「いしかわ魅力ある福祉職場認定」を取得した。

5. 通所介護と小規模多機能型居宅介護事業所の利用者を増やす

通所介護については年間延数5873人から5999人と126人増えた。若干数ではあったが営業活動の効果があつた。

小規模多機能については年間登録数234人から269人と35人増え、黒字に転じた。

6. 中央会グループ内での連携した運営

特養の場合、入院が長期化することが多い。2名以上の入院をショートステイの空床利用で補うことは難しかった。金沢有松病院の病棟と連携を速やかに行い、入院が長引く場合は、いったん退去して頂く、そして治療が終了すれば優先して再入居できることを、早めに家族様に説明し了解して頂くことがやはり課題である。

7. ユニットケアおよび基本的ケア、専門的ケアの改善

今年度は食に関するケアと栄養・水分・そして褥瘡について、介護職員・看護師・管理栄養士の多職種連携による研修会を行った。利用者様・入居者様にとって食べるということは大きな楽しみである。栄養面はもちろんだが、“おいしそう”と思える盛り付けや食事場面の雰囲気づくりも含めての食支援を行うことができた。

8. 新型コロナウイルス感染症の対策

施設内における新型コロナウイルス感染の発生を予防するため、日常的な業務において手洗い、マスク着用、清掃の徹底、換気、面会や来訪者の制限、「3つの密」の防止等、最大限の予防策を講じており、現在のところ職員、入居者様においては感染の発生はない。職員に対しても「3つの密」を避けること、不要不急の外出や旅行を避けることなど施設にウイルスを持ち込まないように注意喚起の周知をしている。また、「石川県緊急事態宣言」の要請によりデイサービス、ショートステイでは家族の対応が可能な限り利用の自粛をお願いしている。しかし家族の対応が困難なことが多いのが実状でありその場合は臨機応変な支援を行っている。今後も厚生労働省からの対応の方向性の趣旨を踏まえ、感染防止に向けた取り組みを徹底していく。また入居者様と家族様が面会できないことで淋しさや不安が増すことがないよう、施設から家族様に電話をかける、写真を送付することなどで施設での様子をお知らせしている。またテレビ電話による面会の代用も開始した。今のところは家族様には安心して頂いておりトラブルが発生するようなことはない。

職員について、保育所が子どもの受け入れをしてもらえないため出勤できない女性職員が増えてきている。このことは新型コロナ対策に緊張を強いられている現場の職員にさらに負担を加えることになり、マンパワー不足が緊急の問題になってきている。

9. 事業所目標

特別養護老人ホーム

- (1) 入居者様の目線に合わせ、まず一呼吸、入居者様の思いをしっかり受け止める、そして笑顔のケアを行う
心がけていてもできないことがあった。入居者様一人ひとりと意識的にコミュニケーションを図る必要がある。
- (2) 職員一人ひとりの介護（知識・技術・接遇）の質を上げ、入居者様に合わせたケアが提供できるようになる
年度の中旬までは焦りや不注意からの報告書が多発。緊張感をもってケアを行うよう職員同士、意識して声を掛け合うことでようやく落ち着いてきたように思われる。目標は継続していく。
- (3) 職員一人ひとりが情報に責任をもって対応しチームケアにつなげる
情報や課題についてしっかり話し合い整理したうえでの発信になっていないことがある。情報の共有や協議、整理をしてから発信・記録していく。
リハビリ専門職とも定期的に連携できるようシステム化していく。
- (4) 看取りケアについて事業所内勉強会を行い、意識を高める
看取り希望の入居者も増えたため、迅速な対応を日頃から心がける
看取りケアの目標については、看取り委員会で集約する。

グループホーム

- (1) 常に自分の思いで動いていないか？ちょっと待って！入居者様の意思確認。
- (2) 先生になることはやめよう！
- (3) 入居者様とのふれあい、職員の思いやりを大切に。
自分たちの都合を入居者様に押し付けてないかと注意しながらの対応はできていたと思う。職員が支持的な言葉を発することも見られず、入居者様への接遇に関してほぼできていたと思う。
職員間については何もなかったとはいいがたく、いい日も悪い日もあったという感想である。思いやりにかけた時はやはり揉め事となるのは、新採用者が多くいろいろな方が集まったので仕方のないこととは思う。今期は環境が変わった状況だったので、また職員間の関係性が良くなれるように努力をしていく。

ショートステイ

- (1) 情報の共有を図る（報・連・相）
職員は常に情報を共有しようと努力をはしていたがバタバタすることもあり忘れることもあった。
- (2) 笑顔で接遇
明るい雰囲気は常に意識されて笑顔で接遇はできていたが言葉使いはまだまだ定着できていない職員もいた。

- (3) 利用者様・職員がともに安全で安心できる環境づくりに努める

事故は予測し居室やフロアで危険と思ったらすぐに話し合い変更を行っていたが安全・安心は・今後も課題になる。

小規模多機能居宅介護

- (1) 利用者様と共に笑顔あふれる日々を送ろう

毎日、笑顔でお迎えし楽しく過ごして頂けるよう声かけやケアができていた。

レクリエーションや体操を各自が考え、職員間で共有できた。

- (2) 利用者様の日々の変化にも統一したケアが行えるよう職員間の連携をよくしよう。

ミーティングが開催できない場合でも、毎日の申し送りやほのぼののケースで共有し統一したケアが行えるよう努力した。ケアのずれがあった場合も、確認し合うことができた。接遇ができていない場合があるので、これからも意識し思いやりのある接遇で接する。

- (3) 利用者様の「～したい」の実現に取り組み、喜んでいただこう

「～したい」が一部の利用者に偏ってしまい全員の思いを実現することができなかった。日頃のケアから情報を聞きだす意識を忘れず「～したい」をもっと引き出し喜んでいただけるよう工夫をする。

デイサービス

- (1) 利用者様、家族様に喜んでいただける個別ケアに取り組んでいこう

個別ケアにおいて計画し評価できたが、全員にはできていないため来年度も引き続き個別ケアに重点を置き取り組んでいく。

利用者様や家族様から情報収集し、個別ケアに取り組むべきだったがあまりできなかった。

利用者様のケアより業務が優先される場面があったので気をつけたい。

- (2) 電話対応、来客対応の接遇力を上げよう

電話対応が相河のルールに則っていない職員がいたのでルールを徹底していく。

来客対応はお客様やケアマネさんに明るく挨拶できた。

利用者様に対しての言葉使いが崩れてしまうことがあった。

- (3) 新規利用者様獲得に向けてアピールしていこう

お試し利用に力を入れ、新規お客様に応じたレクリエーションを企画するなど工夫を行い利用につなげることができた。

看護部

- (1) 情報を共有し、統一した看護を提供する。看護部内で報・連・相を心がけ看護師全員が同じレベルのケアや支持ができるようにする。

職員の入れ替わりがあり、業務の流れがスムーズでないことがあったが、意見を出し合い、業務改善を心がけ、少しずつフォットワーク良く業務をすすめることができるようになった。

各部署の申し送りノートの活用と午後のミーティングを毎日行うことにより利用者様の情報共有に努めることができた。

急変時、状態報告の連絡方法の変更により金沢有松病院への情報提供がよりスムーズに行えるようになった。

栄養部

- (1) 多職種との連携を強化し、利用者様の状態を把握した食支援を行う
看護師、ケアマネ、介護職員と情報共有するように努めたが、入所や退所の連絡漏れあり、食事提供時に気づくこともあったため確認の連絡等も積極的にしていきたい。
- (2) 月に1度のイベント食を提供する
月に1回のセレクト食は継続して提供できたので良かった。セレクト食の選択の形式や締め切りの変更、ソフト職の選択を一本化したことで業務がスムーズになり選択食の提供にも幅が広がってきたと思う。
- (3) 嗜好調査で意思の伝えにくい利用者様には職員から情報を得るように努める。
栄養士が代わってから、嗜好調査が行われていないので3/16～3/22の期間で実施し集計結果をまとめ来年度に生かしていきたい。

事務部

- (1) 事業所内での情報共有の強化を図る
ミーティングを導入した結果、お互いの動きが見えるようになった。ただ各部署の動きがまだ見えていない部分もあるため、今後は他部署との連携を図っていく必要性を感じた。
- (2) 心のこもった受付対応を行う。
来客様が来られても、どの部署に案内するのか迅速な対応ができていないことがある。他部署との情報共有を図り、ご迷惑をかけないように心がける。
- (3) 施設内外の環境整備
施設内外の見回り、花壇の手入れは行っているが古い展示物がそのままだったりカレンダーの月の変更が抜けてしまうことがあった。今一度美化チェックリストを再確認する。

10. 特別養護老人ホーム入退所（定員29名）

区分		新規入所者				退所者					
		在宅	その他 (他施設から 転入等)	病院	計	家庭 復帰	医療機 関入院	他施設 へ転出	在籍入 院中に 死亡	看取り 死亡	計
令和 1 年 度	4	2			2		2				14
	5										
	6										
	7	1			1		1				1
	8	2			2		1			1	2
	9										
	10			1	1		1				1
	11			1	1		1				1
	12	1			1		1				1
	1			2	2		1			1	2
	2			1	1		1				1
	3	1		2	3		2			1	3
	計	7		7	14		11			3	14

11. 救急車搬送状況

〔H31年4月1日 ～ R2年3月31日〕

年度	月	件数	部署	状況
令和 1 年 度	4	2	グループホーム	胸痛 SP02低下
			グループホーム	脳出血
	6	2	グループホーム	腹痛 SP02低下
			ショートステイ	発熱 SP02低下
	8	1	ショートステイ	右大腿骨転子部骨折
	10	1	ショートステイ	肺炎 尿路感染
	11	1	特 養	左半身麻痺 脳梗塞
	12	1	ショート	意識レベル低下 脳梗塞
	2	4	デイサービス	誤嚥性肺炎
			グループホーム	発熱 SP02低下
			小規模多機能	意識レベル低下
			ショート	意識レベル低下
	3	1	デイサービス	意識レベル低下
合計件数		13		

12. 事故発生状況（金沢市報告）

〔H31年4月1日 ～ R2年3月31日〕

部署	件数	内容	状況
特養	0		
グループホーム 式番館	0		
小規模多機能	0		
ショートステイ	3	右大腿骨頸部骨折	夜間に居室で転倒しているところを発見、右大腿骨頸部骨折のため手術
		胸椎圧迫骨折	早朝にトイレの帰り転倒したと本人より報告あり、胸椎圧迫骨折
		膀胱瘻カテーテル抜去	入浴の際にガーゼを外す時に抜去、受診し再度カテーテルを挿入
グループホーム	5	右大腿骨転子部骨折	トイレで自分でズボンを上げようとしてバランスを崩し転倒、手術はせず
		左側頭部裂傷	居室洗面台付近で滑って洗面台にぶつけ3センチほど裂傷、受診し縫合
		後頭部裂傷	歩行時方向転換しバランスを崩し転倒し机の角にぶつけ裂傷、受診し縫合
		右側頭・大腿部打撲	更衣時バランスを崩し右側に転倒しチェストに強打
		左脇打撲	トイレに向かう途中に歩行器ごと転倒し歩行器に強打
デイサービス	1	送迎車の接触事故	路面凍結のためスリップし他施設の送迎車に接触。お互いの同乗利用者様には怪我はなかった

13. 職員の採用・退職の状況

〔H31年4月1日 ～ R2年3月31日〕

職種別		施設長	事務員	直接処遇職員					栄養士	療養士 理学療法士	宿直	合計
				相談員 生活	介護員 介護	看護員 看護	マケ ネア	小 計				
令和 1 年 度	採用		3		29 (7)	3 (1)	1 (1)	33 (9)				36 (9)
	退職		4		15 (2)	3		18 (2)	1			23 (2)
	3月末 職員数	1	3 (1)	1	82 (19)	6 (3)	1 (1)	90 (23)	1		2 (2)	97 (26)

()はパート等非常勤人数

14. 施設職員の研修状況

〔H31年4月1日 ～ R2年3月31日〕

	回数（延べ人数）	
新人研修	2回（32名）	倫理・法令遵守 感染・褥瘡 事故防止 身体拘束排除・プライバシー保護など
職場外研修	32回（62名）	石川県社会福祉協議会 福祉総合研修センター等の研修会に参加
職場内研修	8回（149名）	水害時対応訓練 栄養・水分（脱水）について オンコール
		バリデーションの理論とグループワーク 看取り 記録について
		事故防止 ストレスマネジメント
		各事業所発表（レク紹介 他施設研修報告など）
外部講師研修会	11回（244名）	新人接遇・接遇フォローアップ・中堅リーダー研修
		介護技術（移乗編） 介護記録 口腔ケア 感染予防

「特定処遇改善加算」支給について

リーダー級の経験・技能のある介護職員への処遇改善です。
当施設では、役職やキャリアパスを指標とし、下記の内容で対象の職員へ支給したいと思います。

Aグループ 介護福祉士の資格を所有し、特に高度な技術、知識のもと、運営・経営を理解し、部署の管理や、他部署、地域の関係機関との連携・実践を行っていると認められる者。		◆毎月の給料で支給 (2020. 6～2021. 5) 約 34, 000 円(/月) ◆一時金 (年2回) 約 204, 000 円
B-1グループ 介護職として、高度な技術、知識のもと、部署の管理や、他部署、地域の関係機関との連携・実践を行っていると認められる者。		◆毎月の給料で支給 (2020. 6～2021. 5) 約 17, 000 円(/月) ◆一時金 (年2回) 約 102, 000 円
B-2グループ 介護職として、自身の仕事を分析的に見ることができ、改善できる。後輩に対し、指導育成を行う役割を果たし、上位者の支援も行っていると認めれる者。		◆毎月の給料で支給 (2020. 6～2021. 5) 約 8, 500 円(/月) ◆一時金 (年2回) 約 51, 000 円
C-1グループ 特に高度な技術、知識のもと、運営・経営を理解し、部署の管理や、他部署、地域の関係機関との連携・実践を行っていると認めれる者。		◆毎月の給料で支給 (2020. 6～2021. 5) 約 8, 500 円(/月) ◆一時金 (年2回) 約 51, 000 円
C-2グループ 本部として、他部門とのスムーズな連携が行え、介護職員等への支援を的確に行っていると認められる者。		◆毎月の給料で支給 (2020. 6～2021. 5) 約 500 円(/月) ◆一時金 (5月末賞与) 約 3, 000 円

・支給された加算額によっては、上記の金額を下回る場合があります。

・期間の途中で退職し、一時金支給日に在職していない職員には、一時金は支給しません。また、在籍期間が短い職員についてはその期間に応じて支給します。

・最終的な金額調整は2021. 5月支給の一時金で行います。

・上記賃金改善以外に賃金改善に応じた法人負担分の法定福利費増加分があります。

・不足する財源は、法人より補填しています。

■合計資金収支比較

	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年
事業活動収入	329,260,422	345,021,821	348,840,442	401,776,992	422,535,137	424,168,645	435,544,661	549,375,014	462,943,603
事業活動支出	271,978,125	290,512,749	302,015,685	348,877,098	384,733,677	385,008,441	394,673,878	391,794,951	416,749,422
事業活動資金収支差額	57,282,297	54,509,072	46,824,757	52,899,894	37,801,460	39,160,204	40,870,783	157,580,063	46,194,181
当期資金収支差額合計	45,775,040	33,903,593	-8,134,895	-84,913,222	2,954,170	-380,956	3,280,692	116,765,149	-83,262,745

グループホーム開設

介護報酬減額
介護職員処遇改善加算の増額
職員基本給一万円アップ

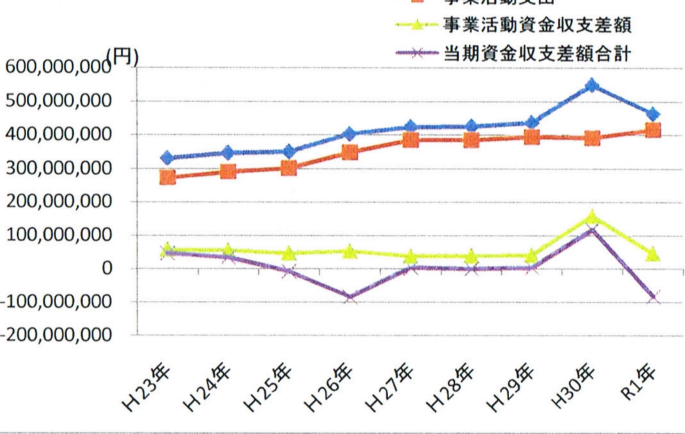
借入金償還額ピーク
(3400万円)
家電品の修理・買換え
パソコンのサーバー入替え

病院より寄付金1500万円
機械浴修理 避難誘導灯ランプ
交換工事 避難誘導灯ランプ
ディ風呂クロス張替 LED工事

病院より寄付金1億1500万円
水道光熱費(電気代値上影響受け
昨年と比較し、122万円UP
介護報酬増額

グループホーム武番館開設
消費税10%引き上げに合わせた
介護報酬増額
介護職員特定処遇改善加算の新設
新型コロナウイルス感染症の流行

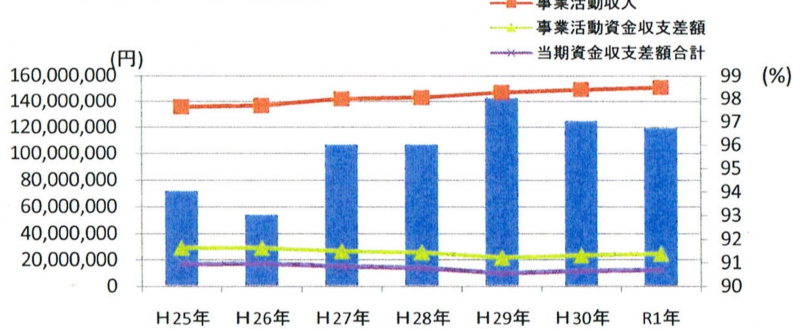
合計資金収支比較図



■資金収支比較(特養)

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年
稼働率%	94	93	96	96	98	97	97
事業活動収入	135,880,891	136,823,112	142,151,979	143,267,489	147,278,770	149,614,174	151,218,562
事業活動資金収支差額	28,704,013	28,683,499	26,258,580	25,313,988	21,480,041	23,116,524	24,407,410
当期資金収支差額合計	16,667,747	17,055,048	15,020,873	13,959,031	9,948,065	11,663,563	12,512,460

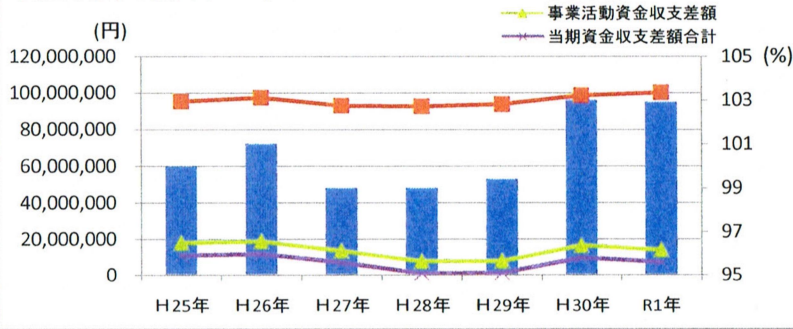
資金収支比較図(特養)



■資金収支比較(ショート)

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年
稼働率%	100	101	99	99	99	103	103
事業活動収入	95,371,348	97,571,033	93,177,443	92,711,780	93,900,668	98,811,788	100,239,468
事業活動資金収支差額	17,954,758	18,816,229	13,581,809	7,725,407	7,971,484	16,513,535	13,986,718
当期資金収支差額合計	10,914,112	11,801,699	7,002,627	948,688	1,208,593	9,746,459	7,145,253

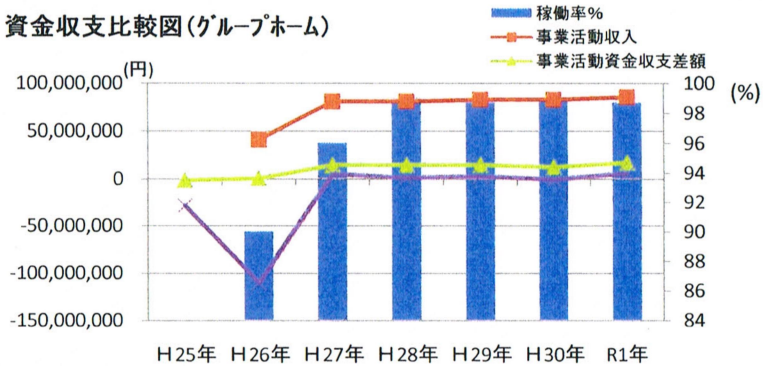
資金収支比較図(ショート)



■資金収支比較(グループホーム)

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年
稼働率%		90	96	99	99	99	99
事業活動収入		41,518,912	81,425,963	81,473,553	83,474,814	83,632,059	86,301,969
事業活動資金収支差額	-1,189,583	866,957	14,768,653	14,947,148	15,321,896	12,899,542	17,580,834
当期資金収支差額合計	-28,749,583	-110,268,935	5,288,386	1,269,856	3,073,672	-272,542	6,457,335

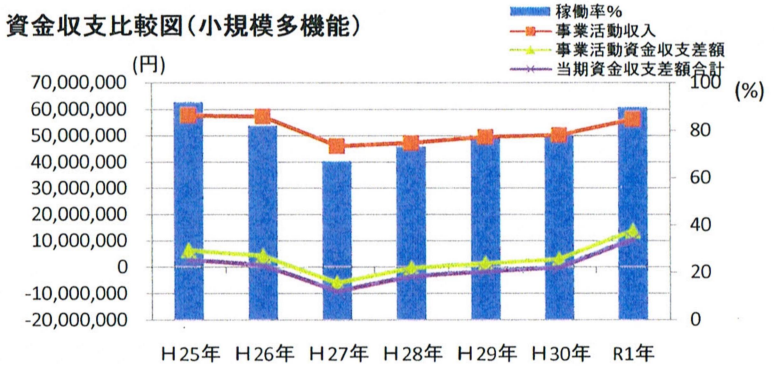
資金収支比較図(グループホーム)



■資金収支比較(小規模多機能)

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年
稼働率%		92	82	67	73	78	90
事業活動収入	57,841,244	57,455,598	46,101,530	47,265,785	49,555,204	50,281,517	56,428,762
事業活動資金収支差額	6,458,835	4,345,766	-5,971,327	-277,614	1,510,557	3,030,001	13,773,740
当期資金収支差額合計	2,879,180	765,433	-9,073,594	-3,446,369	-1,585,929	-28,298	10,598,637

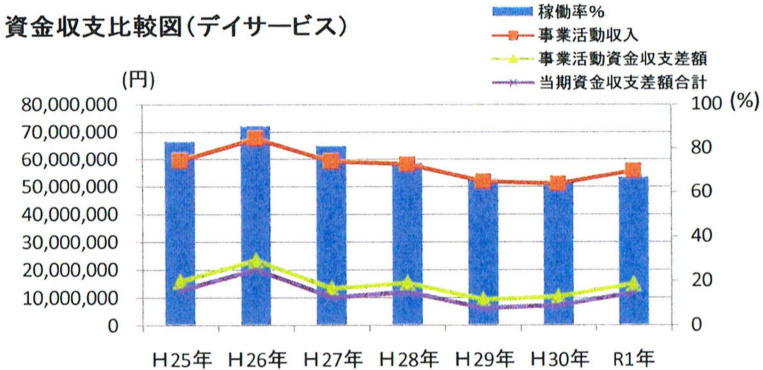
資金収支比較図(小規模多機能)



■資金収支比較(デイサービス)

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年
稼働率%		83	90	81	73	66	67
事業活動収入	59,456,832	67,570,641	59,223,220	58,252,109	51,968,513	51,107,965	55,861,562
事業活動資金収支差額	15,836,433	23,448,624	13,263,971	15,306,598	9,379,163	10,462,771	14,935,702
当期資金収支差額合計	12,604,826	20,092,683	10,044,102	12,036,539	6,231,044	7,315,873	11,693,720

資金収支比較図(デイサービス)



■資金収支比較(グループホーム式番館)

	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R1年
稼働率%							85
事業活動収入							11,869,992
事業活動資金収支差額							-11,347,435
当期資金収支差額合計							-111,834,526